

令和元年度 前期 学校評価まとめ

項目	●色 教師アンケート項目 ●色 生徒アンケート項目 ●色 保護者アンケート項目		■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない		肯定 否定 割合		総合評価	H30 前 H30 後		
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)		肯定 %	否定 %				
I 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	77	23	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動にとりこんでいる。	46	54	0	100	0	B	B 94/6 A 100/0	
	③	目指す生徒像	「よく学び、工夫する生徒」を育成している。	63	37	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0
			「心豊かで、助け合う生徒」を育成している。	66	34	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0
			「健康で、たくましい生徒」を育成している。	63	37	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0
			「意欲を持ち、やり抜く生徒」を育成している。	54	46	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0
	考察	「let's love 大好き若中」、校長先生のわかりやすい経営方針に基づき、学校教育目標や目指す生徒像に向けて、教育課程全体において先生方が熱心に取り組んでいる。また、授業においてもチャイム前には教室で待機、「若草中学びの作法」をはじめ、「学びの共同体」「山梨スタンダード」など、学力向上に向けた取組も熱しに行われている。生徒理解はもちろん、生徒の自主自立を重んじた育成が行われており、「若草みまもり隊」や「あいさつ」、「ラジオ体操」など「信頼される学校」を目指している。								
改善	人事評価や一人一実践、一校一実践における改善点による各自の教師としての質を高める。また、学校行事や特別活動におけるPDCAサイクルを意識した取り組みを行う。学校評価の各アンケートの結果を真摯に受け止め、今後の改善に役立てる。									
学校関係者評価委員会意見	若小、若中とも卒業生が比較的多い。話してみると「若草LOVE」と笑顔で返してくれる人が多い感じがする。大人目線では、お騒がせ時期もあったようだが、それも含めて生まれ育った地域、学んだ学校を好きでいられることは素敵だ。そんな地域の空気も感じながら、校長が示した「let love 大好き若中」はわかりやすく、生徒だけではなく地域も巻き込んだ前向きな雰囲気づくりにもつながっていると思う。									
II 校務分掌について	①	職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっている。	77	23	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0	
	②	自分の分掌と他の人の分掌との関連を考え、相互に連絡・協調している。	46	51	3	97	3	B	A 94/6 A 100/0	
	③	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。	74	23	3	97	3	A	A 94/6 A 97/3	
	④	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。	71	29	0	100	0	A	A 97/3 A 100/0	
	⑤	職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践している。	69	31	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0	
	考察	総合評価はおおむね良好である。しかし、否定数のある②③は、課題の要因がコミュニケーション不足による事例が上げられるからだと思われる。「信頼される学校」「スムーズな学校運営」のためにもしっかりと連絡を取り合うことが必要である。								
改善	・教師ひとり一人のコミュニケーション・学校運営の参画の意識化。 ・ミドルリーダーとして自覚をもち、若い教師を育てる学校運営への参画。 ・管理職、主幹、生徒指導主事、学年主任間の情報交換のさらなる意識化をする。(運営委員会)									
学校関係者評価委員会意見	H30年度も前期の反省が後期に生かされている。働き方改革も含め、業務がバランスよくなるよう、お互いの仕事状況を知り合う努力があるのだろうと思われる。どの職場でもコミュニケーションは大切である。生徒の命を守る以上、徹底がますます必要である。									
III 学習指導・進路指導に	①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	69	31	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0	
	生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。	61	33	5	94	6	A	A 96/4 A 93/7	
	保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。	31	56	9	88	13	B	B 89/11 B 85/15	
	②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。	69	31	0	100	0	A	A 100/0 A 100/0	
	生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	68	28	4	95	5	A	A 96/4 A 95/5	
	保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	30	52	15	82	18	B	B 84/16 B 81/19	
	③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。	50	47	3	97	3	B	B 97/3 A 100/0	
	生12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたり、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	66	29	4	95	5	A	A 96/4 A 94/6	
	保12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたり、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	32	51	14	83	17	B	B 85/15 B 81/19	
	④	少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を行っている。	50	47	3	97	3	A	A 93/7 A 100/0	
	生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	68	28	4	95	5	A	A 96/4 A 95/5	
	保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	30	52	15	82	18	B	B 84/16 B 81/19	
	⑤	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。	41	59	0	100	0	B	B 96/4 A 100/0	
	生14	先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。	58	34	7	92	8	A	A 93/7 A 89/11	
保14	先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いますか。	35	50	10	85	15	B	B 87/13 B 89/11		
考察	基礎・基本の定着はもちろん、表現力・学習意欲まで含めた学力向上に良く努めている。先生方の③④は校内研究に関わる部分であるが、毎年多くの異動があるため、これまで蓄積された財産が受け継がれていないため100%にならないと考えられる。「わかりやすい授業展開」「授業の工夫」「生徒理解・評価」について、生徒評価は90%、保護者は80%以上を占め、十分に達していると考えられる。しかし、100%を目指し、努力を怠らないことが大切である。									

改善	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前の学習会の充実と補習授業等の計画（各学年） ・生11～14について、生徒達からすべてA評価が付いたことはとても素晴らしく、今後も生徒との人間関係も深めつつ、より生徒の意欲が高まる授業の工夫・改善に努めていくことが大切である。（校内研究の充実） ・指導と評価の本化については、生徒ひとり一人の学力向上を目指しているが・・・先生方の苦悩の表れがB評価となっていると思われる。これからもひとり一人の学力向上を目指した取り組みに努めることが大切である。 ・保11～14については、B評価となったが、「開かれた学校」「信頼される学校」を目指して、「説明責任の果たせる」取り組みが大切である。 							
◎	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。	42	58	0	100	O	B	B 93/7 B 100/0
考察	<p>若草中学校では1年生では「身近な人への職業インタビュー」として、働く意義を考えさせる基礎作りを行ない、2年生では「職場体験」として、本年度は2日間の体験活動を通して社会生活についての見識を広めるとともに自己理解を深め進路を選択していく力を身に付けている。3年生では自己を総合的に理解させ、進路の情報や知識を得ながら進路選択の能力を高めさせている。</p> <p>進路指導は生き方教育である故、各教科・道徳・総合・特別活動において、計画的に横断的に全学年で行われるべきものである。若草中学校においても、全体計画に基づき、各学年の発達段階に応じた取り組みを行っている。卒業に向けて適切な進路選択が行われるよう、今後とも現状の活動をPDCAサイクルを行いながら工夫改善し、より良い進路指導のための努力を続けていく。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特にキャリア教育において、各教科・道徳・総合・特別活動における横断的な関わりの見直しを行うとともに、キャリア教育の推進を図る。（キャリア教育主任） ・各学年の取り組みを中心に、PDCAサイクルで工夫改善を行っていく。 							
学校関係者評価委員会意見	<p>学び合いの授業について、保護者評価は正直「わからない」なのではないか。9/4読売記事から感じる・・・「これからは、個人の力と、チームを組んだ時の力の両面を考えていく必要があるように感じる」から、生徒個人の力は、保護者には伝わりやすいが、学んでいるときにおいて「チームを組んだ時の力」をどう評価し、伝えていくか、また、その大切さをどう伝えるかが大事だろう。「わかりやすい授業」など、成績から判断してしまう場面がある。</p>							
①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。	79	21	0	100	O	A	A 100/0 A 100/0
生15	先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。	59	33	62	92	8	A	A 92/8 A 89/11
保15	先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれると思いますか。	35	48	11 5	84	16	B	B 85/15 B 85/15
生16	学級担任の先生には、気軽になんでも相談できますか。	49	32	13 6	81	19	B	A 85/15 B 83/17
保16	お子さんは、担任の先生になんでも相談していますか。	24	40	21 16	64	36	C	C 63/37 C 62/38
考察	<p>生15・16から先生方が日頃より、生徒ひとり一人を大切にしながら対応している姿が十分に伝わってくる。</p> <p>保15については、先生方が生徒を親身になって考えていることが保護者に伝わっていると思われるが、16については残念な結果であり、真摯に受け止めて今後対応を考えていく必要がある。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ひとり一人の生徒を大切にしたい対応を続けていく。（生徒理解と生徒情報交換の大切さを全職員が意識化） ・チームとして対応が必要な場合の組織を強固にする。（学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SC等関係職員） 							
◎	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。	73	27	0	100	O	A	A 100/0 A 100/0
生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。	51	33	12 3	85	15	A	A 87/13 A 84/16
保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。	44	40	12 4	85	15	B	B 83/17 B 85/15
考察	<p>約束や集団としてのルール、マナー等を身に付けることは、今後社会に出る上で非常に大切なことである。先生方はとても重要と考えているとともに、生徒達もその必要性を自覚しており、先生方の指導についてもしっかりと受け止めることができている。</p> <p>保護者にとっては、起床・就寝・食事など、直接見える部分であり、心配している様子がうかがえる。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣やマナー等、「あたり前のことをあたり前に」、全職員で気が付いたことについて指導を続けていく。（生徒指導主事のリーダーシップ） ・家庭・地域との連携を図りながら、より生活習慣やマナー等の充実を図る。 							
◎	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。	55	45	0	100	O	A	A 100/0 A 100/0
◎	生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。	52	42	60	94	6	A	A 100/0 A 100/0
考察	<p>生15と生16のA評価からも先生方が生徒ひとり一人の生徒理解に努め、望ましい人間関係を育てようとする努力がうかがえる。授業や教科外においても細かく指導している姿が見られている。</p> <p>生徒支援委員会において、支援を必要と思われる生徒ひとり一人について、今後どのような指導が適切であるのか、アドバイスが行われると同時にチームとしての関わりについてもよく検討されている。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が気軽に相談できるようコミュニケーションを大切にする。（全職員の意識化） ・生徒支援委員会の情報はもちろん、生徒理解を共有できる場を形式にとらわれず気軽に設定（朝礼等） 							
◎	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳の実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。	32	68	0	100	O	B	B 83/17 B 96/17
生17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。	65	29	52	94	6	A	A 92/8 A 89/11
保17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。	31	57	9 4	88	12	B	B 86/14 B 87/13
考察	<p>本年度より「特別の教科 道徳」となり、熱心に道徳の授業にも取り組んでいる。</p> <p>道徳教育は、他教科等すべての教育活動において育まれるものであり、その点先生方があらゆる場面において一生懸命取り組んでいる姿がうかがえる。</p> <p>生徒・保護者共にしなやかな心の育成を望んでいることがうかがえる。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間計画、教育課程の編成。（道徳主任、各教師の意識化） ・各学年ごとに道徳授業内容について情報交換や資料の共同制作を行う。（学年主任・各学年道徳担当） 							
◎	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。	71	23	60	94	6	A	A 100/0 A 100/0
考察	<p>不登校やいじめは学校が解決しなくてはならない喫緊の課題である。不登校については、特に中1ギャップが多いといわれおり、小中連携がとても大切である。また、外部機関（SC、SSW、支援学校等）との連携も大切である。</p> <p>「いじめは絶対にゆるさない」という強い姿勢を先生方は持っており、道徳指導はもちろん、アンテナを高くし、教職員の情報収集と情報交換も頻りに早期発見・早期対応に努めている。</p>							
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはどここの学校でも誰にでもおこりえるというスタンスを常に持ち、早期発見・早期対応に努める。（教師の意識化） ・新たな不登校を生まないための取り組みを、今後も続けていく。（生徒理解・小中連携・生徒支援委員会等） 							

	学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を通してなのか、保護者の評価「子どもが担任になんでも相談・・・」が低い？なぜなのか？生徒の声を聞いてみたい。 基本的な習慣や、ルールを守ること、周囲に配慮することなど、素晴らしいと思う。地域の人からの評価も高い。それを生徒に伝える努力をしたい。 								
V 特別活動について	①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。	57	43	0	100	0	A	B 100/0 A 100/0	
	②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成就感が満たされる内容を工夫している。	60	40	0	100	0	A	B 100/0 A 100/0	
	生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。	72	24	41	96	4	A	A 96/4 A 94/6	
	保18	子供たちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。	43	51	61	94	6	B	B 93/7 B 93/7	
	考察	先生方が日頃から生徒に満足感や達成感を味わってもらえるよう、愛情を持って生徒に寄り添っている。生徒達も学校行事に満足しており、保護者も生徒の成長に必要であると理解していると思われる。								
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の目的や意義、取り組み方を全職員で共通で確認をする。（各行事ごとにPDCAサイクルにて検証と改善を含む） 学校での活動の様子が保護者に伝わるよう各種たより、HPの充実に取り組む。（各担当者） 								
	③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。	77	23	0	100	0	A	A 100/0 A 96/4	
	④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。	71	29	0	100	0	A	A 97/3 A 100/0	
	考察	朝読書は今年で5年目となる活動である。一日の始まりが静かで落ち着いた雰囲気からスタートすることは、授業への集中力の高まりや穏やかな生活につながっていると思われる。								
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間を生徒も教師も全員が本を読む時間にする。（職員の意識化） 読書内容の工夫と改善。（図書委員会で検討し提案する） 								
	学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書は周囲の雑音（学力の補修、ドリル学習等）の中、覚悟して小学校でも継続して取り組んでいる。小中一貫した心を育てる活動であり、落ち着いた一日をスタートさせる活動である。「若草の子」を育てることを意識し、小中9年間の目標や、その達成のための具体的な活動を明示する時なのだと思う。すでに、この「朝読書」はぜひ今後も継続を。 あらゆる行事等、生徒を信頼して任せる姿がありがたい。生徒も信頼を裏切らないようによく頑張っている。 								
VI 家庭・地域との連携について	①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。	66	34	0	100	0	A	B 100/0 A 100/0	
	②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。	38	56	60	94	6	B	B 87/13 B 85/15	
	考察	保護者や地域からの意見など、全職員で共有し教育活動に生かしている。地域連携については、学校応援団として植木の消毒や草取り等の美化活動に取り組んでいただいていることと、授業講師や部活動指導として積極的に取り組んでいただいております。育成会等、地域が生徒を育ててくれていることもあるので、連絡を取りながら地域連携を図っていくことが大切である。								
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターとの連携を図り、地域人材の活用（教頭） 地域連携を視野に入れた行事の再検討を行う。（主幹、生徒会顧問） 								
	③	学校・学年・学級たより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。	56	44	0	100	0	A	B 84/16 B 96/4	
	生19	学校は、いろんなたよりやホームページなどで、出来事を積極的に連絡し、また公開していると思いますか。	50	37	8 5	87	13	B	A 82/18 A 83/17	
	保19	学校は、各種たよりやホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。	34	50	12 4	84	16	B	B 84/16 B 91/9	
	考察	各クラス、各学年、各担当で、それぞれの思いや願いを込めて適切な時期に諸たよりを発行している。生徒からでは伝わりきれない多くの情報が、適切な形で保護者に伝わることは、お互いの信頼関係を高めるうえで効果的に働き、開かれた学校づくりに大きく役立っている。ホームページ運営については、担当がはっきりしない部分もあり滞ってしまう部分もあったが、情報管理主任を中心に担当の再確認等を行い、タイムリーな更新を心がける。								
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの継続的発行と内容の工夫改善を行う。（各発行者） ホームページさらなる更新を行う。（情報管理主任が声掛けをし、担当が積極的に更新していく） 								
		学校関係者評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 「支え合い協議体」が市内各地域で広がっている。小学校単位から、現在では自治会単位を視野に進められている。CSをカバーし、「学校を核とした地域づくり」を目的に、「地域・学校協働活動」が期待されている。新たな組織を立ち上げるのではなく、「支え合い協議体」等、地域の諸団体と取り組むべきテーマに沿って活動をコーディネートして学校、地域がウインウインの関係で互いの成果が生み出せるような取組が今後期待される。すでに、若中生徒が小学校児童に対し、また、地域の高齢者に対して「みまもりたい」の活動を行っていることは、その先駆的なものだと感じる。 学校からの情報発信について、HPに新しい情報アップにも労力がかかる。保護者からの前向きな評価も高くない。新たな情報発信の手立てとして、生徒が中心となって行うこともありかと思う。生徒が作るHP、その内容に関しては保護者も目を向けるだろう。今小学校のイベントも、地域の行事も「子どもだけ」では子どもも集まらない。「親子で」の視点から物事を考えることが大事かと思われる。情報発信は子どもだけが、親は常に近いところにいたい、何をやっているのか知りたいと思っている。 「I 教育目標」でも述べたが、若草地域は、「若草LOVE」でつながっている。その度合いが他の地域に比べ強い。そこを生かして、学校づくりができると思う。 							
VII 自身と職場に	①	学校へ来ることが楽しかった。	47	44	90	91	9	B	B 91/9 B 96/4	
	生1	あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。	63	29	53	92	8	A	A 92/8 A 91/9	
	保1	お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。	66	27	44	93	7	A	A 95/5 A 94/6	
	考察	学校へ来ることに楽しさを見出している生徒が多く、また、その様子が保護者に伝わるので保護者評価も高い。先生方の努力の表れだと考える。反面楽しくないと思える生徒が35人もいることにも目を向け、生徒ひとり一人に日があたるような指導を心がけていかなければならない。先生方においても「ややそう思わない」先生方が若干名（3名）いらっしゃるようですが、チームとして支え合うことや個人としてもコミュニケーションを図る努力が大切である。								
	改善	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は大きな行事が多い。ひとり一人の生徒が輝けるような取り組みを行う。（学年、担任、担当） 先生方の学年を越えたコミュニケーションを今まで以上に図る。（教師の意識化） 								
	②	授業や生徒のことなど、必要な時に職場で話げができた。	68	29	30	97	3	A	A 94/6 A 100/0	
③	子供たちに信頼される教師であった。	13	75	9 3	88	13	B	B 90/10 B 96/4		
④	教師としての力量を高めることができた。	42	55	30	97	3	B	B 90/10 A 100/0		

い し ん	⑤	教師集団として、一つにまとめることができた。	38	53	90	91	9	B	B 84/16 B 96/4	
	考察	職員室では、生徒の頑張りや心配になる点など、学年を越えて話が行われている。職員が顔をそろえて話ができるのは、部活動後の遅い時間になってしまう。そんな中、生徒の情報交換等に労を惜みずに取り組んでいる。 ③については、生徒14・15アンケート結果からみればもう少し高くてもよいと思える。 ⑤については、上記の①同様、支え合い、それぞれ個人としてもコミュニケーションを図る努力が大切である。								
	改善	・生徒理解のためには学年を越えた情報交換を今後も行う。(生徒指導・学年主任・教師の意識化) ・教師としての力量を高めるため、専門性や総合的なコミュニケーション能力を高める努力を続ける。 (教師の意識化・管理職・主幹・学年主任・ミドルリーダー) ・よりレベルの高いものを求める教師集団であるために、常にコミュニケーションと研究と研鑽を続ける。 (教師の意識化・管理職・主幹・学年主任・ミドルリーダー)								
	学校関係者評価委員会意見	・「学校へ行くのが楽しい」・・・「楽しくない」生徒はどうしてそう思うのか、それを話せる友人、先生がいればよいのだが・・・。 ・職員同士も学年を越えたコミュニケーションがたいせつである。								
施 設 設 備 に つ い て	①	学校には、教育活動に必要な施設・設備が整っている	9	41	44	6	50	50	C	C 52/48 C 58/42
	生①	学校には、学習するのに必要なもの・場所・道具などが整っていると思いますか。	60		31	72	91	9	A	A 92/8 A 88/12
	保①	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。	28	51	17	3	79	21	C	B 81/19 B 87/13
	考察	学校の老朽化は非常に大きな問題である。例えばトイレが少ない、水場が少ないなども何年も課題として取り上げられているが、その解消のためには莫大な予算(1つの便器で150万×個数)が必要であり、その改修規模の大きさから早急な対応も難しい。要求は今後も行うが現時点では限られたスペースや施設・設備に手を入れながら、改善改良や対応を探るのが方策と言える。 一方生徒の施設・設備への満足度が高いことは、他校との比較ができないことが大きな理由であるが、教育活動に対する満足度が高いこともその理由の一つであろう。ここに教育活動は中身が大切であることを教えられる気がする。								
	改善	・必要なものを年次計画で継続して請求していく。 (施設・設備については教頭、各種備品については教科主任、その他必要な物品については各担当が責任を持って請求する)								
	学校関係者評価委員会意見	・老朽化している施設(特にトイレ)については、若草小卒業児童は小学校がもっとひどかったので、まだ我慢できるのではないかと思う。かわいそうである。 ・予算等がなければどうしようもないが、保護者の意見等も伝えることが大切。								